



縫製過程のシステム化・機械化による生産性向上

株式会社イワキ

枕の生産工程で、枕の側（生地）を手作業で型入れ裁断していたが、CADシステムを導入したことで型入れ作業を自動化した。これにより作業効率が約83%改善、梱包作業も自動機導入で作業効率が約88%改善出来た。

導入前の課題

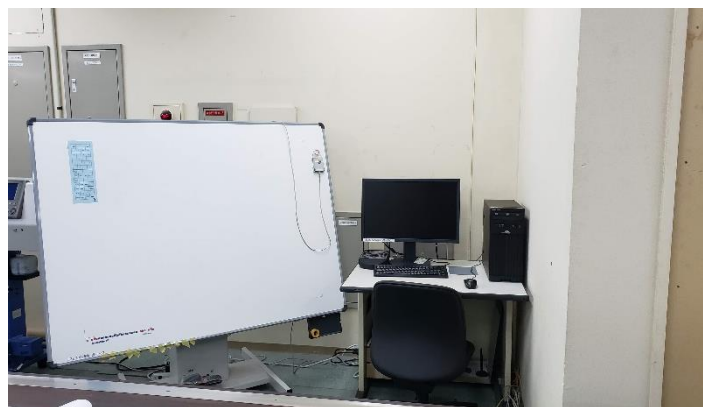
当社は縫製能力を活かし、枕やクッションの製造販売を行っている。この製品は安定した市場で、沖縄県内の大手量販店にて販売。また、本土のメーカーである西川リビングの枕のOEM生産を受注することで、安定した売上を上げている。弊社の枕の製造過程で、「型入れ」と「梱包」の作業段階に課題を抱えている。枕の型紙を使って生地へ裁断の下書きを型入れの作業は手作業で行っており、作業効率が悪い。梱包作業は、バンドを段ボールへかける単純作業だが、立ったり、かがんだりするため従業員への足腰へ負荷が高く、身体的負担となっている。

補助事業での取り組みと成果

設備の操作には一定の知識が必要なため、技術研修を受講。型入れ作業では、デジタイザに貼り付けた型紙をマウスで型紙の枠に沿ってなぞり、一定の操作とデジタイザから型紙を出力するだけで、型入れ工程が完了した。10分で作業完了するため、83%の作業時間短縮となる。梱包作業は、箱を設置するだけでバンドがかかるため、ほとんど作業時間を要しない。1箱当たり20秒程度の作業で、88%作業時間短縮となった。どちらも大幅な作業時間短縮のため、残業や休日出勤の削減ができ、梱包作業では従業員の労働環境の改善にもつながる。

課題

取組と
成果



デジタイザの導入により容易にスキャニングが可能



自動梱包機の導入で作業効率、作業負荷が減少



主力製品の枕と梱包された様子



店舗外観

補助事業後の展開

沖縄県は、観光客数が増加傾向の経済状況にある。それに伴い宿泊施設も増加傾向にあり、設備を清潔に保つ必要があるため、枕やクッションといった寝具の需要も増加する傾向にあるため、顧客の細かな要望に対応し、営業実績を積み上げ、中規模施設の需要増加を図っていきたい。また、既存事業のプロセス改善・作業効率改善による生産性向上も期待できるため、余剰人員を序期のため、営業活動の強化にもつなげていきたい。

With コロナ、After コロナにおける取組

宿泊施設へ営業展開を行っていたが、観光業を中心に打撃が大きく、予定していた営業戦力ができなくなった。近年進めていたかりゆしウェアの販売で、これまで行っていた BtoB のチャネルに加え、EC サイトなどを活用した BtoC の販売チャネルも増強し、これまで培ったノウハウを活用して、コロナ禍を乗り越えていきたい。



代表取締役 小林 隆

会社概要

事業者名：株式会社イワキ

代表者：代表取締役 小林 隆

住所：沖縄県宜野湾市志真志 1-20-7

資本金：1,000 万円

従業員数：14 人

電話：098-896-1566

FAX：098-896-1575

設立年月日：昭和 63 年 1 月 18 日

業種：繊維工業

URL：<http://www.kariyushiwear.jp/>